

令和7年度 地域福祉活動支援事業 ホームページ用報告書

神奈川県社協ホームページに掲載しますので、助成事業の概要を簡潔に記入してください。

※必要事項を記入または☑ 1ページ以内に収まるよう作成

団体名	NPO 法人アレルギーを考える母の会		
団体の属性	☑セルフヘルプグループ・当事者等		□ボランティアグループ等
	□市町村社協やそれを構成員とする実行委員会等		
助成区分	☑一般助成	□協働モデル助成	協働モデル助成 本会提示テーマ
助成事業名	アレルギーによる孤立やいじめを防ぎ課題を解決するための相談・研修事業		
事業の目的	当事者家族、サポーター専門職共に、正しい理解と適切な対応で子どもの人権を守る		
事業概要	<p>○相談対応：県民センター相談室（毎月第4火曜）や旭区市民活動支援センター「みなくる」、川崎市民活動センター、横浜市役所フリースペースでは対面で、電話やメールも含め年間約400人延べ2000件の相談に対応した。相談から浮かんだ課題解決のため、相談者とともに厚木市教委（5月8日）、横浜市教委（5月16日）と建設的な話し合いの場を持った。</p> <p>○リーダー懇談会：7月13日、開港記念会館で「アレルギーの施策の推進に患者が果たせる役割」をテーマに意見交換を行い、4患者会が活動報告、講師の藤田医科大学ばんだね病院アレルギーセンター長の矢上晶子先生が作成した「アレルギー疾患の治療と就学・就労の両立支援実施の手引き」を参考に、自治体などへの働きかけ事例を交え40人で意見交換を行った。</p> <p>○アレルギー研修：藤沢市の民間学童「みるちゃいんど」職員2人小学生3人（5月10日）、座間市の鈴鹿幼稚園職員15人（5月21日）、川崎市の平間こども文化センターで放課後児童クラブ職員に「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」を使った研修会を実施した（6月26日）。他に県や横浜市の研修会・講演会、アレルギー協会相談会で展示と相談対応を行った。</p>		
成果や課題	治療が奏功せず、学校・園など集団生活の場での疾患無理解に起因する「いじめ」の相談が後を絶たない。相談を寄せた一人一人を大切に、適切な医療につなぎ、集団生活を担う行政の関係部署と課題を共有して各種の指針などに基づき丁寧に話し合うことで、自治体の対策が見直され現場の対応も変えることができた。		
今後の展望	国や県のアレルギーの拠点病院などと連携しながら活動を続けたい。国や自治体等へ患者の声を届け、当事者が適切な医療知る情報提供体制づくり、拠点病院や各自治体への相談窓口の設置、乳幼児期の適切な保健指導などを通して、アレルギーがあっても症状なく、各人の夢を実現できる社会をめざしたい。		
活動の様子が分かる画像 2枚程度添付	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>座間市の鈴鹿幼稚園で行った研修会（5月21日） 川崎市の放課後児童クラブ職員の研修会（6月26日）</p>		